

一般財団法人

日本緑化センター

資格制度のご案内

活動事例集

自然再生士

養成認定

損なわれた自然環境を修復・再生し、育成・保全することを適正に実施するための総合的な知識と技術を備えた人材の養成認定。



自然

再生

士

士



日本緑化センターは、樹木・樹林の健全な育成・管理、マツ・松林の育成・管理、損なわれた自然環境の再生に貢献する人材を養成することを通じて、樹木等の植物の多様な役割の効果的な発現を図り、もって国民の安全で快適な生活環境やレクリエーション空間の保全・創出、生物多様性保全に寄与することをめざしています。

①何事にも繋がる自然再生士の知識と技術

◆私の職場、そして自然再生士との出会い

柏木平レイクリゾート(株)は、宿泊施設(ウッドエコテージ一五棟)、ピアレ스토랑(現在、地ビール製造はしていないが大きなレストラン棟)、合宿棟(体育館、ステージなどを含むホールと調理室、宿泊部屋からなる棟)などと、恵みの森(マウンテンバイクや歩くスキーが楽しめる自然林)からなるリゾート施設です。周りは三六〇度を猿ヶ石川に囲まれて、まるで湖上に浮かぶ島のような見え方から島地区ともよばれています。

お客様あつての仕事柄、綺麗に掃除が行き届き、心地よく過ごせる場所と



柏木平レイクリゾート(株)の様子



施設内のコテージ宿泊棟 柏木平レイクリゾート(株)

いうのは、当然でどんな仕事においても、オフィスはそうあるべきでしょう。特に自然に触れ合うためにわざわざ田舎に来ていただくのですから、普段の生活の場とは違った自然を提供しながらも、ある程度歩きやすいように環境を整備するのが森のメインのあり方だと思っていました。

が、あの震災(二〇一一年三月十一日)が起りました。何もなくなってしまう県内外の沿岸部を目の当たりにし、今ある自然がどんなに尊いものなのかという強い想いや、それを維持・保全、さらには向上させなくては

ならないという使命感を感じました。そして、どうすればそれができる自分になれるのか、色々調べるうちに出会ったのが自然再生士という存在(資格)でした。そこから私は施設をより一層充実させるための知識を得ようと考えたのです。

◆いざ、自然再生士になってみて

どんな分野でもいざ足を踏み入れてみると奥が深いものです。ましてや自然の奥深さといったら想像を超える深さです。知識とは有難いもので同じフィールドでも知識を持つてみると、ちよつと前まではズバズカと長靴で歩いていたところに、「宝の山が!」というくらいキラキラしたものを見つけることができます。自然にあの漢方薬のセンプリが、自然繁殖したヤマユリが、都会ではあの高価なタラの芽が、いつも簡単に手に入る。ここで、ただ大喜びして手に取り食べたり売ったりするのはただの植物に詳しい人です。

自然再生士はそれらの貴重な植物を絶やすことなく、増やして持続させていく技術と能力を持っているのですから、それぞれのノウハウで次代に繋いでいくことができるのです。その植物の特性を知り、環境を整えること



多田 るみ子

ただ・るみこ
柏木平レイクリゾート
自然再生士

ができるのです。植物や木々を考えると、自然に鳥や野生の動物との関わりのほか、地形、天候、海流、宇宙と、探求すべき世界は無限に広がってきます。夏休みの宿泊のお客様に虫を見ようと案内する時でも、なぜ虫がそこで見ることができなのか? 虫の種類や大きさ、見られる期間、光り方などの一般知識以外の興味深いところから紹介することができます。

現代は人間だって生きるのは楽ではありません。豊かな自然の環境が何より人間には必要ですが、それは人間が作らなくては維持することは不可能です。東北の田舎でさえ、松枯れや山々の木の伐採、農薬と川の関係など、膨大な問題が山積みです。都会での環境確保は更に容易なことではありませんが、自然再生士が荒波に抗ってしなければならぬこととでしょう。各人、各地で環境破壊への刺客として活動するのみです。

② 都市の自然を保全するには

◆都市のみどりの重要性

私は都市公園の整備や管理を行う業務に携わっています。

都市の中に緑の空間を整備することが主な仕事ですが、現在ある空間を保全し、訪れる人々の安全安心と、自然の触れ合いの場を確保するのも重要な仕事です。

都市の自然は小拠点程度のものが多く、分散して存在しています。それでも生き物にとっては貴重な生息空間で、大きな目で見れば、山から海につながる生態系ネットワークの一部であると共に、快適な生活環境、災害時の被害軽減やヒートアイランド現象の低減など、人間の生活に安全と質を提供してくれる存在でもあります。

◆都市のみどりの危機

しかし近年、近畿の都市内ではナラ類、シイ・カシ類の枯死を招くナラ枯れが広がっており、被害の増加で生物の生息空間が失われると共に、倒木や落ち枝による人的被害リスクが高まり、生態系と人の双方に大きな影響を及ぼしています。

また、ナラ枯れ以外にも、外来生物による在来の生態系への被害や、これまで日本では確認されていなかった

新たな病害虫の発生・拡大が各所で顕在化しており、これらの対処も重要性を増しています。

加えて、開設してからかなりの年数が経つ公園では、取り込まれた樹林地や池といった既存の自然の遷移が想像以上に進み、当初保全したいと考えられていた生態系が変化・消失してしまふといった状況も発生してしまふ。希少生物が保全されていた場所などでは、対象となる生物が絶滅してしまふ可能性も出てきています。

◆都市のみどりを守るためには

これからの都市の緑の管理は、これまでのような定期的な日常管理能力だけでなく、このような各種懸案に対する対応・予防措置を取ることが可能な知識・技術力が必要となってきました。しかし、管理者サイドには（予算的制約もありますが）専門的な技術者が常に不足している状態で、現時点では、なかなか十分な対策がとれていないのが実情です。

自然再生の技術は、原生林の保全や工場跡地など、荒廃した土地を緑化するだけではありません。都市の小さな緑であっても、生態系の変化や発生しうる危険を早期に察知し、リスク回避

のための助言や処置を実施できるのは、自然再生の技術があればこそ可能なのだと考えています。

そういう意味で、自然再生の知識を有する技術者の参加は、管理者サイドにとって都市の緑が現在有する生態系の損失を防止し、人々の生活環境を守る上で力強い援軍となります。

自然再生士をはじめとした技術者が、都市の自然の保全に多く携わり活躍することで、人と自然が共存し、自然の恩恵を受けた生活が営める都市が各地で実現・維持されることを願っています。



水路作りへの参加の様子（自然再生士実地研修、岡山県真庭市）



溜池作りへの参加の様子（自然再生士実地研修、岡山県真庭市）



奥田 篤

おくだ・あつし

奈良県庁奈良公園事務所整備課
自然再生士・樹木医

③ コンサルタントとしての自然再生士の活動

◆ランドスケープコンサルタントとしての仕事

私はランドスケープコンサルタントとして、常日頃、公園緑地や広場などの計画設計や運営計画を行っています。

公園緑地は、設計や整備が重要なこととは言うまでもありませんが、それにも増して管理運営が重要です。そのため、地域連携や市民協働を自分にとつての大きなテーマとして、設計段階からの市民参加やその発展形としてボランティアの育成を大切にしています。

◆みちのく公園の自然再生活動と役割

そのひとつの例が、国営みちのく杜の湖畔公園における自然再生、自然保



里山地区植生管理勉強会

全に係る業務です。二〇一一年、震災の年から携わった業務であるということもあって、出会ったすべての人に感謝しています。

みちのく公園ではその数年前から、「里山里山地区」において自然再生や自然保全のエリアの整備をしていますが、自然再生や自然保全では、継続的なきめ細かい順応的な管理運営が重要です。この業務は、整備段階から多様な市民の参加を募って、自然観察や資源循環、植生再生など、様々な活動を試行して、住民参加型で運営管理する手法を整理して、今後の運営管理体制づくり役に役立つというものです。



ドングリの里親活動
(2年間育てたコナラ苗の植え付け)

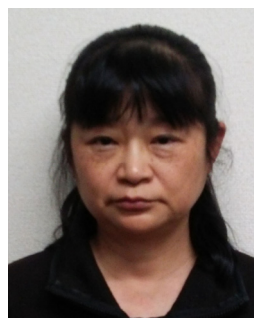
私の役割は、多くの参加者に楽しんでもらえるようなプログラムづくり、プログラム実施の段取り、活動のコーディネート、活動報告を兼ねて次につなげるニューズレターなどの広報、学識者による検討委員会の運営などです。

活動の骨格と言える自然観察や自然再生活動そのものは専門家の指導を受け、参加者とともに楽しみながら学びながらの日々でした。この活動は、今では業務を離れ、個人の立場でずつと続けています。

◆自然再生士としての意識

この業務で私が果たしてきた役割も、自然再生士としてのひとつのあり方と言えます。自然再生に必要な知識、技術、経験は、まだまだ十分とは言えませんが、自然再生を推進していくという強い意識をもって、係わる人々をコーディネートしてきました。

自然再生は個人でできることは少なく、長い時間をかけて多くの人と力を合わせて継続することが重要であり、その意味で私の役割があると考えています。



板垣 久美子

いたがき・くみこ

株式会社緑の風景計画

自然再生士

◆自然再生士が果たす役割と展望

今後、自然再生は世界規模でますます重要になっていきます。身近な自然でも、例えばマルハナバチが減ってきていることなど気になることがたくさんあります。

自然再生士は、地域環境保全への貢献、歴史・文化の継承、地域活性化、人材育成など、多くの、そして大きな役割が期待されていますが、その第一歩として、身近な、大好きな自然が変わらずにあるよう再生し続けること、そのために人と関わっていくことをこれからも大切にしていこうと考えています。

④ 自然再生士の眼力を鍛える

◆私の活動事例①

活動事例を二点挙げる。一つは、静岡県駿東郡にある弊社長泉農場で、継続的に実地研修を行っていることである。現場で活かせる技術習得を目的とした研修会である。二〇一六年六月に第一回、十月に第二回を終えた。

技術習得が目的であるため、内容は実践的に実際に受講者自らが言い、継続的に開催、同じ環境を長い目で見ることを主としている。施工者として、自ら行う手の技術はもちろん、設計者や施主などとの会話を読み解くセンサーを身に付けるには、こういった内容の研修会が必要不可欠であると感じている。特に自然再生は、通常の造園施工技术の枠を超え、林業や生物などの知識が欠かせないからだ。継続的に触れる機会がなければ、技術習得は難しい。今後も実践的な内容を継続的に行っていく計画だ。

◆私の活動事例②

もう一つは、三年ほど前から世田谷区の学校の植栽管理を行っていることである。ここでは、前述の実地研修での体験が活かされている。この学校は、明治期の総理大臣を務めた松方氏の別荘があったところに、昭和三十七年に移転し

てきた。資料によると、昭和四年頃には谷戸川があり、小魚やホタルが見られたようだ。時間が経過し、昔の風景がなくなる一方で、平成十三年の新校舎完成を記念し、昔の湧水を再生し、そこをすだれ沼と称し、現在に至る。

毎年の管理の悩みとして、限られた予算のなかで、大きくなりすぎた木をどう管理するのがある。管理提案の仕方として、自然再生の視点が活かされている。

作業エリアを特徴ごとに分け、管理の判断基準を決める。学校担当者、樹木医、施工者で現場を歩き、学校という特性から、人的危険度の高い木を伐採したり、支柱を設置するなどの処置をする。次に場の特徴を考え、残す木、残さない木を先を見据えて決定し、予算も考慮しつつ計画を立てていく。管理上発生した枝葉なども、ただ廃棄するのではなく、枝集積場などとして利用できる場合は提案・施工していく。こういったことも自然再生士の資格を取得しなければ得られなかったことである。

◆今後の展望

今後は実地研修をできるだけ長く継続して行っていきたい。私が子供の

頃に体験した、虫取りや川遊び、木の木の採取などは、補助的な人の手が入らないと継続していかないことを知った。これらの体験を子供たちにも提供したいし、これが実地研修で伝えたい、手に入れた技術であり、体験であると思っている。

感受性豊かな時期に、子供たちが自然体験を通じて、興味への探求心や何かをできるようなりたいたいといった心、何かを一つずつ積み上げていくことの喜び、そういった心が育ってくればと考えている。



自然再生実地研修の様子（静岡県長泉農場）



矢藤 昭憲

やとう・あきのり

株式会社 矢藤園

自然再生士・作家

我々、職人と呼ばれる職業は、これで十分と思ったら終わりである。毎日の単調な作業の中で、どれだけ色々なこと気づき、そして、その探求心をどこまで継続していけるかで決まると思っている。

自然再生を通し、幅広い視点を学び、様々な動植物が暮らせる場を創り、そこで子供たちが自由に遊ぶ。そんな光景が随所で見られるような未来を目指し、今後も努力を重ねていきたい。

⑤ 未来の「じども達へ豊かな自然を紡ぎたい

◆私のしたいこと

したいこと。それは、「未来の子どもたちへ豊かな自然を紡ぎたい」ということです。そして自然再生士として日々、経験を積み重ねています。私にとって豊かさとは、自然と共に生きる力を育む多種多様な生態系があること、何億年とつないできた豊かな土壌、そしてその中に眠っている潜在的な力などに対し、それに気付く知識と行動です。

人は命という限られた時間の中で生きていて、生涯の中で失った生態系を取り戻すことはとても難しいことであり、消失がいったんはじまると急速に減少し、途中で気が付いても間に合いません。それだけではなく、失った種に替わって他の種が爆発的に増加し、植生が変化し、生態系のピラミッドが崩れてしまうこともあります。



課外授業の様子

また、生きものの時間と人の時間は当然ながら違います。人の考える時間の感覚で対応しようとしても、生きものが減少し消滅してしまうスピードの方が早いことも少なくありません。そして、時が経ち気づいても、失った生態系は取り戻す事はできません。

しかしながら、未来の子どもたちへ傳承し、紡いでいくことはできません。人は目の前のモノがなくなれば失うという自覚を持ち、失っては嫌だという感情も出てきます。そのためには、未来を読み取る力、知識や経験、また問題を回避できる提案力を身につける事が大切です。そしてそれこそが自然再生士の役割といえます。

◆協働のちから

ある市では、「ここは昔、湿原だった」という長老のひと声から、市が動き、大学が動き、全国の自然再生士が集まり、現地では市民ボランティアが集まり、自然再生がはじまりました。その場所は、大昔の集落の田んぼの利用から、時代と共に林業に移り、現在は放棄林となっている森です。大学院生の研究をベースに、湿原として再生する活動ですが、様々な人々が集まり、小さな力が大きな力へと変わる瞬間を体験しました。また、地域の企業も動かすパワーや熱がそこにはあり

ました。これが、私が身を持って経験した「協働」の力です。

休眠している固有種の発芽を促すための水域の再生も行いましたが、自然が時間の経過とともに形成するであろう水域を、それにかかる時間を短縮するために人間がそつと後押しするといった作業自体に、とても面白味を感じました。そして、地域の環境教育の場として活用するため、ツリーハウス（観察小屋）を手作りしたりと、全国から集まった自然再生士がさまざまな職種であるからこそできる技だと感じました。

◆私にできること

普段は、「私にもできること」を大切にしています。小学校での環境教育やワークショップです。生態系のしくみをカードや、パズル、子どもたちの環境アセス会議開催などです、生きものの知恵を利用して、こんなモノを發明したいなど、子どもたちの未来への希望がそこにはあります。

ワークショップでは外来種を利用し、逆の発想で日本の伝統文化づくりを展開しています。遊びから知る気づき、楽しさから知る学びを大切にしています。地域のフィールドでは、高校生たちとの生きもの観察会などを実施。「つながり」ができ、色々な情報



鶴田 鈴子

つるた・すずこ
横浜環境保全緑化株式会社
自然再生士

交換の持つ場となります。今年は、鳥類の写真展を開催する予定となっています。自然再生士は色々な職種の方々がいるように、それぞれ得意な分野があると思います。だからこそ、いつでも勉強、ずっと勉強です。機会がある限り、経験を積み重ね、素敵だなあと感じたこと、感動したことを、私の「私にもできること」の中で、伝えていけたらと思います。

豊かさとは、多種多様な生態系が私たちの暮らしに恩恵を与えてくれ、恩恵から生まれた日本伝統文化、神事や郷土料理など、日本の文化と共に永遠に持続し、残っていくことだと思っています。



生きもの観察会の様子

⑥ 都市域での自然再生の可能性

◆都市域での自然再生の意義

私は建設会社の研究所に所属し、自然再生の知識・技術を活用して都市再開発やまちづくりの研究開発や課題解決に従事しています。

都市域で自然再生の理念が活かせることを意外に感じる方がいらっしゃるかもしれませんが、私は都市域でこそ自然再生の知識・技術が必要とされていると感じています。都市のサステナビリティ向上が社会課題となる中、建築・都市のデザインにおいて生態系配慮が必須となりつつあるからです。

その背景として、今や世界の半数以上の人々が都市に住み、世界の自然資源の3/4以上を都市が消費し、都市で活動する企業が調達や土地利用を通じて生物多様性に大きな影響を与えていることがあります。つまり、世界で起こっている生物多様性の劣化の根本原因は都市の社会経済活動にあり、私たちは都市のデザインに生態系配慮を盛り込む責任があるのです。

◆都市域での自然再生の可能性

一方、世界の先進都市では自然や生態系の持つ多面的機能に着目し、自然力や自然のしくみを賢く活用することで、社会と経済に寄与する国土形成手法、すなわちグリーンインフラ（GI）戦略が注目されています。GIは、世

界の都市が現在直面している社会課題、すなわち激甚化する集中豪雨に伴う洪水・内水氾濫等の水害への適応策として欧米で急速に拡がり、それが今や景観資源としての側面を強めたデザイン手法にまで発展し、地域の魅力向上や雇用創出に大きく貢献し始めています。つまり、自然環境こそがその地域の魅力ある個性を生み出す基礎となると、人口減少社会の都市間競争で都市が生き残るためには地域の個性を活かして魅力を高める工夫が欠かせないこと、その基盤となるのはどこにでもある景観ではなく、その地域の生きものや気候風土などの固有の自然環境であるなどの認識が急速に高まりつつあるのです。

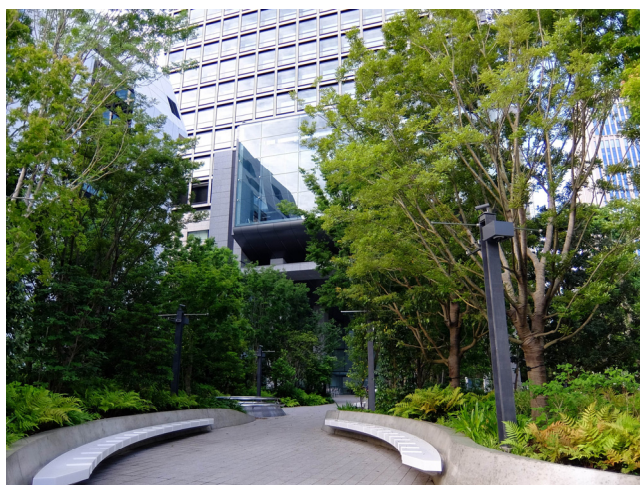
自然を資本として捉えて、豊かな自然環境や伝統文化を活かし、人が住みたい、働きたいと思うような魅力ある個性をもつ美しいまちをつくること、これからの選ばれる都市の条件となりつつあります。したがって、都市における自然を活かした持続可能な土地利用を重視するのは企業だけでなく、都市間競争におけるサバイバルに知恵を絞る国や自治体の目指す方向もおのずと合致してくるのです。このような自然資本を活かしたインフラの再構築には、自然再生に関する知

識・技術が欠かせません。

◆自然再生をめぐる2つの動き

折しも、今年二月に都市の緑を質・量とも強化する二つの大きな動きがありました。一つ目は「都市緑地法等の一部を改正する法律案」の閣議決定です。この法改正では、人口減少社会で生じる都市のスポンジ状の縮退を都市に緑地を増加させるチャンスに反転させる戦略性が読み取れます。

もう一つは、東京都の「生態系に配慮した緑化評価ツール（試行版）」のリリースです。これらの動きは、人口減少、都市の縮退、財政の制約といっ



イノの森（飯野ビル）



三輪 隆

みわ・たかし
株式会社竹中工務店
自然再生士・樹木医

た社会課題をまるごと解決する方策として期待されており、これから再構築されていく都市のデザインや建設に生態学的知見を盛り込んでいくためにも、まさに自然再生士の知見が求められていると言えます。

今ほど、建設・建築業界で自然再生士の果たすべき役割が高まっている時期はありません。私も自然再生の理念や知識・技術を活用して、社会課題の解決にいつそう邁進していきたいと思っています。

自然再生士

「自然再生士」は一般財団法人 日本緑化センターの登録商標です

地域の自然環境を取り戻そう

国内の多様な自然地は、開発や経済活動、生活様式の変化により、既に失われてしまった場所や、失われつつある場所が多くあります。

自然再生活動は、過去に損なわれた生態系や自然環境を取り戻し、「様々な生物が生きられる環境」=「生物多様性」を保全・創出する活動のことです。この活動の対象は、大自然だけではなく、地域特性を活かした里山や田園、磯の再生、公園や緑道の改修といった身近で小さな自然地も含まれています。



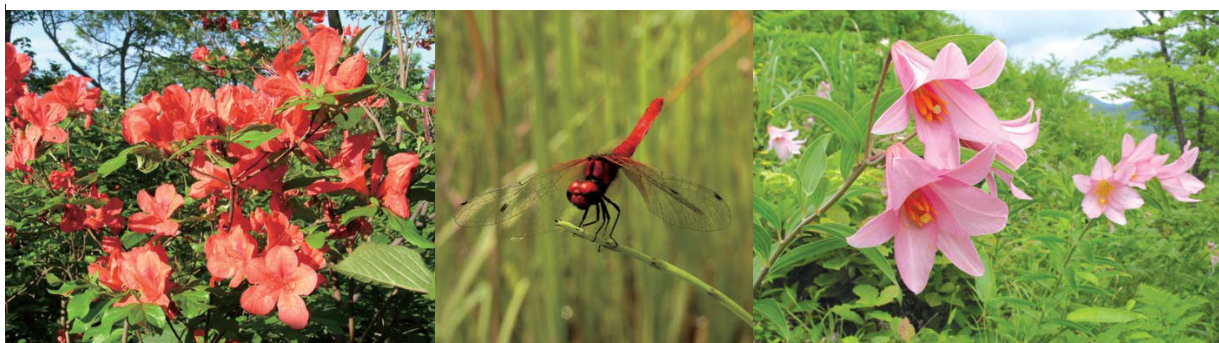
自然再生士の仕事

造園業	● 自然再生事業の調整役 ● 地域特性を活かした施工、維持管理
調査・計画・設計業	● 自然再生地の調査・施工計画・管理計画の立案
林業	● 豊かな森林の再生・保育
NPO、その他団体	● 自然再生事業への呼びかけ、参加、サポート
教育・研究機関	● 生態系、動植物等の研究
行政機関	● 自然再生業務の発注、計画的な自然地の保全

技術を持ったまとめ役

自然再生士とは、自然再生活動に必要な知識・技術・経験のある自然再生の推進者です。自然再生士に求められるのは、その土地の潜在価値に気づき、確実に自然再生を行う技術と、調整役としての役割です。

そのため、自然再生に関する専門知識や技術に加え、多様な立場の人々の意見をまとめ、各々の専門分野を存分に発揮させながら、共通の目標に向かって活動を進める力が必要です。



自然再生士